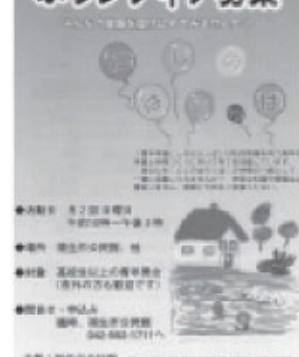


誰もが暮らしやすい まちをめざして

公民館主催事業「青年学級にじのはらっぱ」の活動をとおして

ボランティア募集



青年学級「にじのはらっぱ」は、知的障害のある子どもを持つ親や障害児学級教師の願いから、公民館の主催事業として昭和60年6月に開設されました。公民館がこの活動をとおして目指しているものを紹介します。

障害者も当たり前に生きていくことができるまちをつくる

障害者は長い間、社会から隔離された人目につかない生活を強いられてきました。そのことは障害者の発達を阻害してきたとともに、障害者への正しい理解がない別や偏見を生むことにつながつきました。

そのような差別や偏見を取り除き、たとえ障害があつたとしても一人の市民として、特別視されるのでは

**集団の中で学びあい、
育ちあう関係を豊かに**

障害者はともすると義務教育修了もしくは養護学校高等部を卒業すると、いま

み良いまちは高齢者をはじめ誰にとつても住み良いまちであるはずです。市民一人一人が、潤いのある、豊かな生活を送ることへつながつてきます。

集団の中で学びあい、育ちあう関係を豊かに

生きていける地域社会を作っていく。さらに、このような社会をつくっていくことが活動に参加できない障害者に対しても、活動の成果を還元していくことにつながつてきます。

また、障害者にとって住み良いまちは高齢者をはじめ誰にとつても住み良いまちであるはずです。市民一人一人が、潤いのある、豊かな生活を送ることへつながつてきます。

「にじのはらっぱ」は、スタッフ・ボランティアとして青年を迎え、同年代の人間として尊重し合い、友人、仲間として共に活動することを大事にしています。そこではお互いに、一人の人間として尊重し合い、刺激し合い、切磋琢磨する関係が築かれてきます。それは障害者にとつても、青年にとつても人間関係を結ぶ力、社会性を養う上でとても重要です。また、障害者同士の関係も仲間の中で変化してきます。いつももは介助される側であつた障害者が介助にまわることなど、その関係は流動的で非常に豊かです。

さらに基礎的な生活技術の獲得も「にじのはらっぱ」の大切な役割であり目的で

す。活動を通して、例えば、お金の計算ができるようになりたい、字が書けるようになります。この意欲を引き出し、支え、発展させていくためには仲間の関係が重要になります。ほんのささいな一言を真剣に受け止められるセンスと行動力をもつ質の高い集団が不可欠です。集団の中で学びあい、育ちあう関係を豈かにつくっていくことを目指します。

楽しく、生き生きと自分をだせる場にしていく

障害者の生活はある意味で単調で家庭と職場の往復に終始することがほとんどです。休日は家族で出かけることでもない限り、家の中にこもりがちになっています。月が多く見受けられます。月2回の日曜日、活動に参加するということは障害者の生活に彩りを添え、アクセントをつけることができます。

「にじのはらっぱ」の目的の一つに、自分らしさを